

# 国語 (60分)

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かず、  
左記の注意事項をよく読むこと。

## 注意事項

- 1、問題冊子は、13ページまであります。
- 2、解答用紙は問題冊子の中央にはさんでいます。解答はすべて、解答用紙に書き込みなさい。
- 3、始めの合図でページ数を確認し、受験番号・氏名を書きなさい。
- 4、問題の内容についての質問には、いっさい応じません。印刷のはっきりしないところがあれば、静かに手をあげなさい。
- 5、時間を知りたいときも、静かに手をあげなさい。
- 6、具合が悪くなったり、トイレに行きたいときは、手をあげて、監督の先生の指示に従って行動しなさい。
- 7、問題冊子は、各自持ち帰ってよろしい。

(国語)

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある問いは、すべて句読点記号なども字数に含みます。)

国語

日本人の五大発明って何だろう？ こう尋ねられると、多くの人はウォークマンとか、VHSデッキだとかについて話し始めることだろう。あるいは、一カンバン方式生産<sup>※</sup>とかいうものを持ち出す人もいるかもしれない(ぼくにはそれがどういったものかはよくわからないが)。しかし、ぼくに言わせれば、そうした人たちはみな見当違いをしている。

本当に偉大な発明は「発明」とは認識されることが多い。文化や生活の奥深くにまで浸透<sup>しんとう</sup>しているため、発明だと気づきもしないのだ。たとえば、「週末」がそうだろう。七日のうち二日を休みにするとはいったい誰が決めたのか。人間の生理に基づくものでもないし、宗教に根拠があるわけでもない。どういうわけか、そう決めてしまったのだ。週末に休みを取れる人は、(その休みが奪われそうにならないかぎり)それを当然のことと思っているだろう。週末が休みではない人は、週末に休むことをムソウする。週末——<sup>A</sup>実に素晴らしい思いつきではないか。

ぼくが思うに、日本は大小さまざまな、こうした素晴らしい思いつきにあふれている国だ。

なかでも、その素晴らしさが際立っているのは「花見」だろう。ちょうど屋外で食事をして寒くなるころに、日本人は国を挙げて野外パーティーをする。長い冬の後で、実に身も心もほぐれるようなイベントだ。それに桜が開花する時期きたたら、まるで計ったようではないか。ぼくはときどき、日本人は新入生や新入社員を迎え入れるのを桜の時期に合わせて、親交を結ぶための飲み会をもつて年度を始められるようにしているのではないかと思うこともある。また花見は、新入社員に会社とはいかなるものかを教えるうえでも打ってつけである。「あそこに行つて、仕事が終わるまで席取りをしてきて」と命じられることは、新入社員に組織がどのように動くものなのか、新人の才能はどのように活用されるものなのかを一瞬のうちに理解させることだろう。

さて、ぼく自身、大の酒好きであるが、奇妙なことに花見の席での酒にはあまり感心しない。ふだんから、ぼくが嫌

(1)

いな酒の飲み方というのは、昼間から飲むこと、無理に飲まされること、わざと飲みすぎて大声を張り上げることなのだ。春の上野公園に行ってみるといい。どうしてぼくが、花見の席の酒を好まないか、すぐにわかってもらえるだろう。

ぼくには、花見は「花を見る」というもとの意味からあまりにかけ離れてしまっているように思われる。桜の花はそれだけで十分に見応えがあるではないか。そこで、ぼくは酒と花のバランスを取るために、新しい飲み方のルールをテ  
イアンしたい。「違った種類の桜を見つけるまで次の缶を開けてはならない」というのはどうだろう？ ふつうの大きさの公園であれば、素人でも五、六種類の桜を見つけ出すことができるだろう。とことん飲みたい人もご心配なく。ぼくは何百種もの桜があると本で読んだことがある。

日本人が発明したもので、ぼくのいちばんのお気に入りには銭湯だ。ほとんど完璧とさえ言ってもよいほどの発明品だ  
と思う。銭湯は日本全国で、東京だけでも何百もの箇所<sup>C</sup>で、身体をセイクツにタモつこととリラックスすることを可能に  
してくれている。夏の夕方、遊びに出かける前に日中の汗を流しておけるのはとても好都合だ。冬は冬で、身体が温まる。  
世界のどこであれ、中規模以下の都市では、このような施設はほとんど必要ないだろう。昼間、買い物をした後、夜に  
また遊びに出かけるまで、簡単に家に立ち寄ることができるからだ。しかし、東京では大半の人が仕事や遊びの場からず  
いぶん離れたところに住んでいる。

⑤ ロンドンでも事情はたいして変わらない。しかし、ロンドンには銭湯がない！ これから銭湯を建てるにはもう遅すぎる  
るだろう。 X 的に収支が合わないだろうし、それに何よりもまず、越えねばならない Y 的障壁が高すぎる。

なので、ぼくは銭湯を日本の暮らしトクユウの恩恵と考えているのだが、不思議なことに、日本人はそう思っていない  
ようだ。日本の若者の多くが銭湯に行ったことがないというのは驚きだ。ぼくは、二〇〇二年に東京都浴場組合が作成  
した銭湯マップを持っているのだが、その後、マップにある銭湯に行ってみるとその銭湯が閉鎖になってしまっているこ

国語  
国語

とが何度もあった。

⑥ ぼくはこれはマーケティングのミスだと思う。二千円もする温泉は人でいっぱいなのに、四百三十円の銭湯を利用して  
いるのはお年寄りだけだ。風景画が描かれた壁と壮大な高い天井の浴場、それにハイプ風呂、サウナ、泡とジェット  
のマッサージ風呂などを備えた銭湯の多くは、質の面では決して温泉に見劣りしないのに。

銭湯を「ポータブル風呂」、ウォークマンの風呂版として宣伝してみてもどうだろう。街のどこにしようか好きなとき  
に入浴を楽しめるといふわけだ。あるいは、バーになぞらえられるべきかもしれない。家の風呂に入るのとは違って、第一級  
の設備を楽しむことができ、他の人と気軽に話をすることもできるといふ点をキョウチヨウするのだ。個人的にはぼくは  
友人に、夕方六時から七時にかけてよく生じる「空き時間」をつぶすには銭湯がいちばんだと言っている。酒を飲み始  
めたり、夕食を取ったりするには早すぎるけれども、買い物や博物館見物は済ませてしまったという時間だ。こんなとき、  
銭湯はこれからの予定に備えてリフレッシュするのに最高の場所なのである。

ともかく、イギリスから友人がやって来ると、彼らにわざわざ銭湯に行くことを勧める必要さえないのである。友人た  
ちはあらかじめガイドブックを読んで銭湯に興味を持っており、一度行くとすぐに銭湯のファンになる。銭湯はほんとう  
に素晴らしい思いつきだ。

⑦ 読者のみなさん、おそらくみなさんは思いもなかっただろうが、いま手に取っておられるこの本自体が素晴らしい発  
明だ。いや、ぼくの文章が天才的だと言うのではない。新書判が素晴らしいのだ。初めてこの判型を見たときから、ぼく  
はそう思っている。イギリスでしっかりした蔵書を持つにはたいへんなお金がかかる。出版社は一生懸命、付加価値を高  
めようとして（ぼくはたんに「コストを高めようとして」と言うべきだと思うが）、センスのよい表紙にしたり、丁寧な  
製本にしたり、新しい序文をつけたり、装丁を変えたりするからだ。なかでも腹立たしいのは、活字を大きくして大きな  
判型で出版することだ。いつの間にか、本は中に詰まっている言葉や思想ではなくって、それ自体が商品、見栄えが大

切な品物になってしまったのである。

まず、サイズが大きくなりすぎてポケットに入らなくなる。高価なものを傷つけないので気軽に電車の中に本を持ち込めなくなるし、本好きの人が多くの本を集めようとするとはどくヒヨウがかさんでしまうことになる。

だから、日本の書店に初めて入ったとき、ぼくはシンプルな装丁の幅広いジャンルの本が手ごろな値段で買えるのを見て、**A** 拍手喝采をしたのである。

しかし同時に、ぼくは日本人は品物を見栄えよく差し出すことにもたけていると思う。日本文化の長所の中に、「品物をきれいに折りたたんだり、包んだりすること」を加えてもいいだろう。日本に来て十四年になるが、これにはいまだに驚きに近いものを感じてしまうのである。

「日本人は手先が器用だ」というのは決まり文句になっている。しかし、**B** 決まり文句の中には大きな真実が含まれていることもある。間違いなく日本人はぼくより手先が器用だ。ぼくは、割り箸が入っている袋を折って即席の箸置きを作る方法を覚えたときを、瞬間の／自分の／数えて／誇らしい／人生で／ひとつに／最も／いる。そこに、スーパーでもらったポリ袋の正しいたたみ方を学んだときをつけ加えてもよい。そのたたみ方にしたがって結んでおけば、後でゴミ袋として使うとき、**C** 端を引っ張るだけできれいに広がるのである！

もうわかりだろうが、ぼくにはコンビニのおにぎりの包装のようなものを発明するなんて、**D** できっこない。ご飯と海苔が離れていて、1、2、3の手順で包装を解けば、うまくおにぎりになるといふ、あの仕掛けのことだ。それから、包装紙できれいに包まれた品物。折り方が実に論理的でコウリツ的であることにぼくは驚いてしまう。そうした包装を見ていると、ぼくは初めて日本の城（姫路城だった）を訪れたときのことを思い出す。ガイドさんはいかに日本の大工が材木の継ぎ目を隠すよう工夫したかを説明してくれたのだった。

高校生のころ、ぼくは美術が嫌いだった。先生たちはぼくのことを「ペリシテ人」（趣味のない実利主義者）呼ばわり

国語

国語

したが、それは正しかったのかもしれない。しかし、ぼくは、鑑賞させられた絵画の中に含まれている何かには反抗していたのだと思いたい。「モナリザ」はぼくの心を動かさしなかつたし、それはいまも変わらない。絵のモデルになつていなかったならば名前も忘れられていたであろうオランダ商人たちの肖像画を見ると、ぼくは不快感で胸がむかむかしてしまう。ピカソやカンディンスキーも好きになれない——ある種のレストランの壁にかけておくにはふさわしいと思うが。

でも、**⑩** 広重や北斎はすぐに気に入った。ぼくは美術評論家ではないが、素人なりの考えを言わせてもらえば、作品の制作プロセスこそ芸術を芸術たらしめるものなのだ。版画は同一の作品を何百、何千と生み出すことができる。つまり、浮世絵師はたったひとりの顧客、ある虚栄心の強い大金持ちのために作品を制作したのではない。また、彼らのドウキは神の栄光を高めることにあつたのではなく、個人的な表現衝動の純粋な追求にあつたのではない。浮世絵師は卓越した技巧を持ちながら、それを何千という単位で売れる美術作品を制作することに生かそうとしたのである。

したがって、彼らは人々になじみのある風景を描いた。浅草寺、隅田川にかかる橋、多くの人々で賑わう両国の花火……。現在、自分が住んでいる地域や自分がよく行く公園を描いた作品に出くわすのもまれではないだろう。不忍池や堀切菖蒲園のように、描かれたときからずいぶん歳月が経っているにもかかわらず、浮世絵の名残をどこかにとどめているところもあれば、信じられないくらい景色がイッペンしているところもある。王子に滝があつたとか、いまは人でごった返している街がかつては田んぼだったとかという情景は、想像するのも難しい。

浮世絵の色彩はすぐに目をとらえるし、その構図は斬新だ。浮世絵は、ちよつと言ひすぎかもしれないが時代の記録、少なくとも、その時代の人々の心をとらえたものの記録でもある。浮世絵を見れば、一九世紀に外国人がどのように日本人と交遊していたかがわかるし、人力車の横を汽車が通り過ぎていく光景も目にできる。そこに描かれているのは火消し、芸者、歌舞伎役者といった、一般の人々のあこがれの対象だ。聖人や教皇ばかりが描かれているのではない。

高尚な美術作品に関して、もうひとつ厄介なことは、ふつうの人はそれを絶対に所有できないということだ。人間は所有欲の強い生き物であり、自分の所有物に対して特別な愛着を持つ。今日でも、ちゃんとした浮世絵を一枚一万円以下で手に入れることができるし、広重の代表作の優れた版ですらサラリーマンの年収を超えはしない。ヴァン・ゴッホの絵画となると、年収をそっくり注ぎ込んでも、一平方インチだつて買えないだろう。

ときに日本人は模倣が上手だと言われる。つまり、日本人は外国からアイデアを取ってきて、それにちよつと手を加えて改良するだけだというのだ。そもそも、そうした「模倣」のどこが悪いのかとぼくは思うが、そのような言い方は単純すぎると思う。ぼくは日本人は優れた発明家だと思う——日本人自身がそのことに気づいていないとしても。

〈「ニッポン社会」入門〉コリン・ジョイス（訳）谷岡健彦

#### 《語注》

※カンバン方式生産：トヨタ自動車が確立した必要な時に必要な量だけ生産する生産管理方式。

※マーケティング：消費者や市場の動向を分せき・調査してうまく売り上げをあげようとする活動。

※ピカソやカンデンスキー…ともに西洋の画家。

※広重や北斎…ともに江戸時代の浮世絵師。

問一、——線部①「七日のうち二日を休みにするとはいったい誰が決めたのか」とありますが、この表現についての説明として最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

- ア はっきりとした理由もなくそうなっていることに驚きつつも感心している。
- イ こんなことを「発明」などとは呼べないと少々とまどいつつも納得している。
- ウ 人の気づかぬようなことこそ「発明」の典型だと理解しつつも憤っている。
- エ 自分には到底このような発想ができないと焦りつつもうれしく思っている。
- オ 週末には休めない自分の立場を恨みに思いつつもやはり週末を夢見ている。

問二、——線部②「素晴らしさが際立っている」といえる理由として最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

- ア 長い冬の間の出来事を思い出させるおごそかなイベントであると同時に、新しい仲間との出会いにもつながるものであるから。
- イ 屋外で食事をして寒くない快適なイベントであると同時に、新しい仲間を迎え入れる時期の目安にもなるものであるから。
- ウ ようやく暖かい春を迎えた喜びに心浮き立つイベントであると同時に、新しい仲間と親しくなるにもふさわしいものであるから。
- エ 毎年計ったように同じ時期にある楽しいイベントであると同時に、新しい仲間と交流を深めるにもうって

つけのものであるから。

オ 誰かが思いつきでそう決めた素晴らしいイベントであると同時に、新しい仲間の心をほぐすにもちょうどよいものであるから。

問三、

~~~~線部 a ~ c の文章中における意味として、最も適当なものをそれぞれの選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

a 「国を挙げて」

ア 国じゅうで

イ 国内だけで

ウ 国内外で

エ 国が率先して

オ 国をたたえて

b 「なぞらえる」

ア みならう

イ みたてる

ウ たずねる

エ たのむ

オ いりびたる

c 「たけている」

ア 優れている

イ 努めている

ウ ためらっている

エ 気を遣っている

オ 興味をもっている

問四、

——線部③「あそこに行って、仕事が終わるまで席取りをしてきて」という命令は、新入社員にどのようなことを理解させることになりますか。最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

ア 組織内は人間関係が円滑であることが大切であり、新人はそのために奉仕しなければならないということ。

イ 上司や先輩の言葉とは絶対に従うべきものであり、新人は自分の考えで勝手に行動してはならないということ。

ウ 仕事と遊びとのけじめをつけることが肝要であり、新人は先輩の仕事の補佐をしなければならないということ。

エ プライベートの充実がよい仕事をするこつであり、新人は一方にかたよった生活をしてはならないということ。

オ 会社の中では協力と団結が欠かせないものであり、新人は即戦力として行動しなければならないということ。

問五、——線部④「あまりにかけ離れてしまっている」とはどのような状態だと考えられますか。解答欄の形にあうように十五字以内で説明しなさい。

問六、——線部⑤「ロンドンでも事情はたいして変わらない」とは、どういうことですか。六十字以内でわかりやすく説明しなさい。

問七、文中の空欄 、 に入る語句として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び記号で答えなさい。

- ア 科学
- イ 経済
- ウ 地理
- エ 文化
- オ 統計

問八、——線部⑥「宣伝してみてもどうだろう」とありますが、誰に対して宣伝するのですか。本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

問九、——線部⑦「銭湯がいちばんだ」とありますが、その理由を解答欄の形にあうように二十字以内で説明しなさい。

国語 国語

問十、——線部⑧「新書判が素晴らしいのだ」とありますが、その「素晴らしい」の説明として適当なものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 表紙のセンスがよく製本がていねいである。
- イ 序文が追加され、装丁にも変化がある。
- ウ 付加価値を高めることより、内容を重視している。
- エ 適当なサイズで電車内に持ち込める。
- オ 装丁が立派で少し高価だが傷つきにくい。
- カ 幅広いジャンルの本が手ごろな価格で手に入る。

問十一、文中の空欄 、 に入る語句として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び記号で答えなさい。

- ア とうてい
- イ ときに
- ウ ただ
- エ ひそかに
- オ いっこうに

問十二、——線部⑨「瞬間の／自分の／数えて／誇らしい／人生で／ひとつに／最も／いる」を文の意味が通るように正しい語順に並べ替えて書き直しなさい。

問十三、——線部⑩「いかに」はどの言葉にかかっていますか。最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

- ア 日本の大工が
- イ 材木の継ぎ目を
- ウ 隠すよう
- エ 工夫したか
- オ 説明してくれた

問十四、——線部⑪「広重や北斎はすぐに気に入った」とありますが、その理由の説明として最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

- ア 手先の器用な日本人が即席の箸置きを作るなどという身近なことにも、浮世絵師と同様の精神が脈々と受け継がれていると筆者は考えていたから。
- イ 美術が嫌いな高校時代の筆者にとって、むりやり鑑賞させられたピカソやカンディンスキーには抵抗があつたが、浮世絵との出会いは自然なものだったから。
- ウ 筆者にとって西洋の絵画はレストランの壁にかけて専門家だけが鑑賞するものというイメージがあるが、

国語 国語

浮世絵は生活に根ざした身近なものだと感じていたから。

- エ 優れた技術を持つ浮世絵師が版画の手法で万人に向けて制作を行い、時代の記録とも言えるような一般になじみのある風物などを描いた点に筆者が共感したから。

オ 浮世絵はその構図の斬新さと共に、描かれた景色がその時代と現在とをつなぐ貴重な資料にもなっており、筆者にとっては比較検討する楽しみが尽きないから。

問十五、——線部⑫「日本人自身がそのことに気づいていない」とありますが、なぜ優れた発明家だと気付いていないのですか。本文中の言葉を使って五十字以内で説明しなさい。

問十六、次の文は、もともと本文中にあったものです。どの段落の始めにあるのがふさわしいですか。最も適当な段落の始めの五字を抜き出して答えなさい。

そうになると、いろいろ困ったことが生じる。

問十七、——線部A～Jのカタカナを、漢字に改めて書きなさい。

